

武家名目抄稿

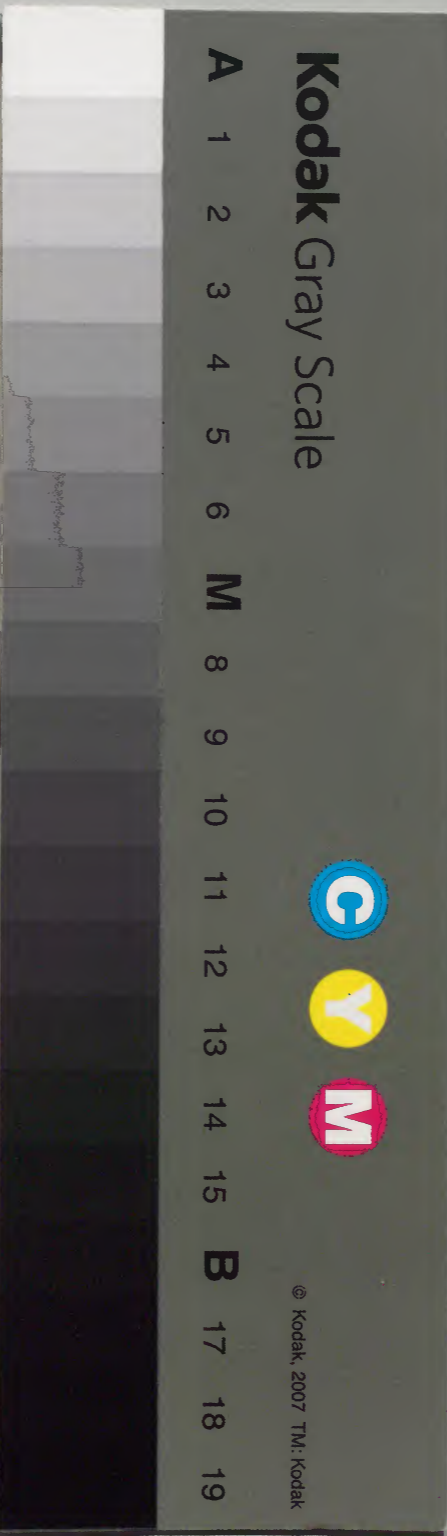
刀劔部十

十

和書門類	二五二〇六號	一七	四
架函冊	一〇	七	五
			六
			九
			冊

內閣文庫	和書類	二五二〇六號	四
架函冊	一七	七	五
			六
			九
			冊

內閣文庫	
番號	和 25,206
冊數	457 (349)
函號	153 275





武家名目抄稿第十冊

刀劔部十目錄

螺鈿野劔

木地螺鈿野劔

蒔繪螺鈿野劔

蒔繪野劔

塵蒔野劔
今元

海浦野劔



平文野劔

銀長覆輪野劔

黒漆野劔

黒鞘野劔

平鞘太刀以下五名一劔

蒔繪平鞘太刀

革緒劔

九毛救抜形劔

平劔

七鞘太刀

二鞘

片蓋鞘大刀

丸鞘太刀

金作丸鞘太刀

七夕鞘太刀

割鞘太刀

打出太刀

平陸太刀
平陸太刀
平陸太刀
平陸太刀
平陸太刀
平陸太刀
平陸太刀
平陸太刀
平陸太刀
平陸太刀

武家名目抄稿第十冊

刀劔部十

螺鈿野劔

名目抄云螺鈿野劔節會行幸日次將用之
公卿不用之

小右記云寬弘二年八月廿三日今日故花

山院宮達御元服加冠祿薄掛袴余起座

退出乘車之間與劔螺鈿野

日用ノ見ル高宗十冊

西三條裝束抄云螺鈿野劔近衛ノ次將外

衛ノ佐等行幸ニ是ヲ帶ス又春日等ノ遠

所ノ行幸ニ公卿ノ大將次將十ト着、

邂逅ノ事ナリ撰家一院ノ所為ノヨシ後

成恩記ニ見エタリ永長二年左大將院知足

下天永二年中納言ノ中將法性寺承元四

年左大將光明寺殿下十ト春日行幸ノ日此劔

玉海云安元二年三月此日公卿被奉賀太上

法皇五十宝筭云々舞人裝束左翹麁綾闕

腋袍梓櫻打下重同色打半辟濃蘓芳打表

袴螺鈿野劔紫綵平緒

明月記云建曆元年十月廿一日自院有召

馳参中關腋袍巡皮螺鈿野劔虎死鞘

次將裝束抄云白馬節會日若預加階之人

卷纓螺鈿野劔不袋付参内引陣之後立入閑

所懸綵帶弓箭平胡以錄立叙列給位記持

舞畢退出云々行幸卷纓綾闕腋袍巡方帶

螺鈿野劔五位入

物具裝束抄云螺鈿野劔殿上人行幸日帶

之但花族壯年之公卿春日行幸十卜二用

之常事也

後照念院殿裝束抄云螺鈿野劔事行幸時

四位將用之五位入尻鞘遠所行幸時大將

并公卿將或用之

桃花葉云螺鈿野劔近未有毛枝形校力也將

佐行幸時用之又春日等遠所行幸公卿次

將若大將等着之撰家一流之所為也

木地螺鈿野劔

飾抄云野劔時繪螺鈿可用遠所事仁安二

十世三殿記曰大納言殿我被仰曰時繪螺

鈿劔遠所行幸可用木地螺鈿京中可用者

蒔繪螺鈿野劔

飾抄云公卿將遠所行幸之時着蒔繪螺鈿野劔木地次將行幸之時多用之而近代次將或用蒔繪螺鈿野劔云々且者御襖嘉祥辨少時實雄入道相國末子用蒔繪螺鈿野劔云々定有其例款可尋

西三條裝束抄云康曆二年正月廿日鹿苑院准后大將ノ直衣始永享二年十一月九

日普光院准后大將ノ直衣始

ノ直衣始康正二年正月廿五日慈照院准後

后大將ノ直衣始文明十九年正月廿五日

常徳大將ノ直衣始等皆蒔繪螺鈿野劔

ヲ帶ヒラレシ也

蒔繪野劔

名目抄云蒔繪野劔或号平鞘大刀或号後形大刀或号革緒太刀上下襲時令持之

又殿上人束帶時依_レ支着_レ之或_レ用平緒或_レ用革緒其間之儀能_レ可思慮也又警固非常行幸等之時衛府公卿以下四五位直衣_二冠束帶_二以革緒用_レ之非武官者不可用_レ之飾抄云保延四二廿四内裏燒亡自東三條行幸白川殿予帶野_二劔_一革緒_二蒔_一次將裝束抄云春日祭使路頭衣冠_二若直衣_一出菓深履_二靴_一半柏夾蒔繪野_二劔_一虎皮弘臨時

祭使路頭_二於_レ朱雀院衣冠_一或_レ出半靴蒔繪野

劔_二靴_一尻柏夾着_二衣冠布衣供奉之時蒔繪野

劔_二相具參入及刻限着_一半靴非殊晴者不具

隨身於蒔時者相具布衣隨身朝夕出仕不

論束帶直衣布衣令持蒔繪野_二劔_一若不慮隨

_{役者可}帶_之

物具裝束抄云蒔繪野_二劔_一大將直衣_一或

用_レ之殿上人布衣日帶_レ之或雖束帶如御幸

帶之

百練抄云永延二年四月廿三日齋王御禊

撰政被向雅信左府棧敷院三四為尊敬道兩親王同渡御

其儲不可数言各有贈物以撰政所帶之蒔

繪野劔被志左府

西三條裝束抄云蒔繪野劔大将等ノ直衣

始并御幸ノ供奉直衣ヲ着ル時是ヲ帶ス

納言ノ直衣始ニモ野劔ヲ用ル例アリ又

直衣始ニモ野劔ヲ用ル例アリ又直衣ニ

冠ノ時モ帶ス布袴ニモ是ヲ帶ス其様毛

枚形アリ平緒革緒時ニシタカフ凡野劔

ニナリテハ蒔繪螺鈿シヒテハ差別ナキ

ト見エ侍ル也將軍家此劔ノ例建久元年

十二月二日右大将朝頼直衣始ノ時革緒ノ

野劔ヲ帶ス

海浦野劔

西三條裝束抄云文治四年正月廿七日
月輪殿下氏ノ長者ノ後初テ春日ノ社ヘ參
詣ノ時衣冠ニ海浦ノ野劔ヲ帶ス先例小
狐ノ劔ヲ用エト云ニ同日内府道二位中
將後經極同衣冠ニ野劔ヲ用エ

海浦ヲ海部トモ書ク海邊ノ景也
至時纏ヲナクといへり

平文野劔

左經記云寬仁元年十月二日丁卯參内可
覽神宝等之由云々紫綾盖一盖四角在平
文野劔一腰細檀赤漆赤漆御号一張箭四筋
平文鉾一本有鉄五寸鏡一面有平文
麻桶一口平文線柱一本

按内宮長曆官符ニ玉纒右刀左柄ニ長
七寸用赤木鞘長三尺六寸並是漆打也
金浪平文ト見ヘ奉公覺悟記ニ云也

之んといふハ之色よるよりなるを不也
と何ハ衣後の平久をいひ也

銀長覆輪野劔

^{廿九}吾妻鏡云嘉祥元年六月廿九日新御堂安
鎮辯僧正定豪修之又被鑄直洪鍾云々辰
尅懸鍾同時奉安置五大明王像於堂中已
二點依可有明王院五大尊堂供養將軍家為御
參堂出御御束帶御劔笏中畧加布施砂金百兩在銀打敷

野劔一腰銀長覆輪云々

黒漆野劔

名目抄云黒漆太刀六位用之用毛抜形
明月記云建久三年四月八日今日始着亮
闇布衣着坐指貫持黒漆野劔

黒鞘野劔

平小右記云寛弘二年二月十七日去夕左府
隨身右近番長身人部保友於偉鑿門前被

射。敏。黑。鞘。野。劔。差。國。定。朝。臣。奉。都。督。

平。鞘。太。刀。以下五
名一劔

名。目。抄。云。平。鞘。太。刀。裝。束。及。諸。者。皆。紫。革。有。

縫。物。

西。三。条。裝。束。抄。云。平。鞘。劔。上。皇。藝。襲。御。幸。ノ。

時。御。車。ノ。内。ニ。入。ラ。ル。將。軍。家。撰。関。以。下。公。

卿。出。行。ノ。時。車。ノ。内。ニ。入。テ。下。車。ノ。後。ハ。先。

駟。ニ。モ。夕。シ。ム。ル。也。帶。ス。ル。一。ナ。シ。將。軍。家。

例。寛。正。四。年。十。一。月。二。日。慈。照。院。准。后。等。持。

寺。八。講。ノ。時。永。繼。朝。臣。平。鞘。ノ。御。劔。ヲ。持。ヨ。

シ。見。エ。タ。リ。

桃。花。菜。葉。云。平。鞘。劔。細。々。出。行。時。入。車。中。令。

持。人。不。帶。之。上。皇。藝。襲。御。幸。時
被。入。御。車。云。々時。繪。野。劔。或。号。平。

鞘。劔。号。毛。抜。形。太。刀。或。号。革。緒。太。刀。之。由。載。

東。山。左。府。名。目。抄。可。尋。之。名。目。抄。ノ。文。ハ。既。時
繪。野。劔。ノ。所。引。タ。リ。

滿。濟。准。后。記。云。正。長。二。年。三。月。九。日。自。御。所。

被尋仰事今夜御元服之後内裏ハ沙金百
兩御馬一匹御劔銀一腰可被進上也中愚
意之趣御治世ノ院ニテ御坐候間尤仙洞
ハ可被進款但内裏ハモ御劔平御馬一匹
可被進条可宜款云々

又云正長二年九月廿二日室町殿御下向
御行粧珍重候中次御輿候御隨身武俊持
御劔平御輿ノ右脇ニ走候

薩戒記云永享九年八月廿七日乙酉今朝

以三糸中納言實末十月可有行幸之由令

奏聞給納言着直衣上格依卒
尔儀也参内飯参申

勅答之趣内裏之儀先以左衛門督内侍申

事由則有勅答其後召御前退出之時被下

平鞆御劔云々

宗吾大双紙云公方様御劔ハ一つ是モモ

也袋ノ入中又ハ切ラセトシテ以將來

の時をたをらまはし御劔一匹緒掛なる金
他より所詮は去るべしは思ふべし
つきの公家も多しは思ふべし
ふんたらし

布衣記云方刀ハ書府の方刀又位の時平靴

とも用弦袋をさし

按時緒野劔を平靴方刀といふと平靴

家中以ふの俗語なり平靴記云時緒

平靴方刀と見たり

時緒平靴太刀

^{十三七六}太平記云藤房卿藤房ト時ノ大理ニテ坐

スル上今ハ是ヲ限ノ供奉ト被思ケレハ

御供ノ宦人悉目ヲ驚ス程ニ出立レタリ

中大理ハ卷纓ノ老懸ニ赤裏ノ表ノ袴靴

ノ背帯ニ時緒ノ平靴ノ太刀ヲ佩アマノ

面ノ羽付タル平胡襪ノ箆ヲ負云々

三内口決云本式の時ハ布衣の侍平鞘

行平菊一文字の名他あり平鞘鞘ハ塗地
高緒

金子當蒲革
の帯也白方刀名他也
當蒲革帯也面句儀可也

革緒劔

毛抜形劔

吉部秘訓抄云仁安三
六經房記二十依入道相国清盛

公所勞被行非常赦申刻許参内無纓冠束
帶如常革

緒劔
取笏

西三條装束抄云平鞘劔貞和二年十一月

九日中園相國風雅集竟宴ノ日院参ノ時

革緒ノ劔ヲ車ノ内ニ入下車ノ後前駈上

首ニモ夕シムルヨシ日記ニ見エタリ其

様常ノ蔭繪野劔ニ革緒ヲ付テ柄ニ毛抜

形ノアルモノナリ則毛抜形ノ劔ト号ス

或革緒ノ劔トモ号スル也

義貞記云小刀ハ長六寸中子三寸毛抜形

ナルヘシ子細アル也口傳在也

平劔

^{十六}助無智秘抄云賀茂祭畧中還日垣下藏人行

事ナラヒニ二鵠等ナリ装束位袍黒半臂

蘇芳下重浮文ノハカマ衛府勤仕ノトキ

ハ^劔夕々ヲハ^帶クケヒ井シハ平劔緋裾長ハ

細劔^{緒丸}

按平劔ハ即平鞘方刀ナリハ

七鞘太刀

日本書紀云^{神功紀}皇五十二年秋九月丁卯

朔丙子久氏等後千熊長詣之則獻七枚

刀一口七子鏡一面及種々重寶

二鞘

万葉集大伴坂上即女歌人車繁哉君子二

鞘之家乎隔而戀乍將座

按七枝刀傍訓ナリハ

リて二箱と云ふ。お似た事と云ふ物ハ
もに詳なる以契沖々代通記ニ二箱ハ
カニつをき以箱なり中に隔乃あれハ
家を入たてとほけける也神切記ニ七
枝カとつハ女ハ二とて其の七ハわか
らるカなるを七の箱ヲ細る事ハ
さぬハたちとつあるハ一口とつる意
ハ詳ゆるハ

又七枝ハ履中記ニ五枝社をぬまぬ
福と訓らみくなくまゝのたちと讀へ
を多を以てあるハさやと訓たる也六帖
カの歌ヲ逢ハものかゝるやハなる七子
のさやハ人の慈^{ヒカ}らる式又箱の歌ニ七
子のさやハ口ニ法とひつゝふをカニ
て行あり澄言をいへるにや二首ヲ神切記の七
枝カニよりてとめらる又七子の箱の口ニ

と讀らうに神切記よらに記してある鞘
のありはうらハ刀のくもたる人乃きやふ
にて収をけらうらハ二鞘もた
まは准記ハ一とハ一ハ考

片蓋鞘太刀

續日本後紀云兼和七年六月己酉正六位
上菅原朝臣梶成等海中遇逆風漂着南
賊地相戦之時所得兵器五尺鋒一枚蓋鞘横

佩一柄箭一隻云々

按片蓋の鞘未詳或人云凡て鞘ハ刻て
合するを是ハ刻記ハ一とハ一とハ一と
之のこを何らん志らうらハ刀子を入
ハ一とハ一とハ一とハ一とハ一とハ一と
削り去りてかき入たるは右刀の考の
方ハ記述て又の方ハ乃之鞘ハ覆つる
たハ片蓋鞘とハ一とハ一とハ一とハ一と

太刀。モ捨タリケル

金作丸鞘太刀

太平記云監治判官歌ノ心ヲ釋シケレハ

師直大ニ悦テ嗚呼御邊ハ弓筈ノ道ノミ

ナラス歌道ニサハ無双ノ達者也ケリイ

テ引出物セントテ金作ノ圓鞘ノ太刀一

振手ツカラ取出シテ薬師寺ニコツ引レ

ケレ

又云山崎尾張守ハ元ヨリ氣早ノ若武者

ナレハ今度ノ合戦人ノ耳目ヲ驚ス様ニ

ノ名ヲ揚ントスル者ヲト兼テ有増ノ事

ナレハ其日ノ馬物ノ具笠符ニ至迄當リ

ヲ輝カシテ被出立タリ中當家累代ノ重

寶ニ鬼丸ト云ケル金作ノ圓鞘ノ太刀ニ

三尺六尺寸カノ太刀ヲ帶添云々

モク鞘太刀

異本保元物語云くはしり高松殿のハ
おちやうあしんてしと志の山さよありて
さやのさしきも少細言入道志んせし
こころは神不替なる降衣の家つて
たるあきつ福といふもさやのち刀をそ
とひたりける

按参考保元物語と系作本松系本鎌倉
本よちうさしり何より志の山なる金

赤の布と同一てなく本鞘をむくさや
ちたり代書所見なれといかた鞘を
知るハカシ

割鞘太刀

長門本系本語云上圖 家貞もさしり
そのたれたるものありはれはた、笠目
惣て殿とハハ庭と候るは、さしり
の年六家房とて十七歳ありさる健り

乃丈高き骨ゆき〜カミをれ交くるかき
あ〜こ〜なるものさる松皮色の袴衣
の下に黒糸威の腹巻をきて袴前はく
之尺又寸有るり。ち。や。の。右。刀。綴。き
もきもて袴衣乃袂より手をおして女居
つおいさゆつきて殿上のか〜を雲透雲見
ま〜〜指たりき

袴刻鞘といふは、何れも、靴の表裏をかく

て色ハたゞを〜と〜〜袴穿索ま

打出太刀

今昔物語云平維茂郎九月晦比ノ事ナレ

ハ庭暗ケレハ所ニ二柱松ヲ立タリ太郎

ハ物食ヒ畢テ高枕シテ寝ス枕上ニ打出

ノ太刀置タリ傍ニ弓胡録録カ鏡甲有リ云々

又云觀硯聖人在俗山中ノ谷迫奄造タル

所有り糸捻ハシキ事无限吉馬二三匹
許繫タリ大ナル釜共居并テ谷ノ水ヲ懸
テ湯涌ス其二将行タレハ年九十許ナル
男ノ怖シ氣ナルカ水干装束シテ打出ノ
太刀帶タリ郎等世人許有リ云々
世に按打出ハ柄鞘乃装束内之長曆送官
府ノ玉纒方刀を柄ニ長七寸用赤木鞘
長三尺六寸、深打ハ金銀平文と見

へたり

外合 鐘木行

附註十六年七月

武家名目抄稿第十冊





明治十五年九月

日旧稿校正小野由久

同年同月十九日再校并書

水上昌言

同年同月廿一日校合

小野由久

明治十六年十月

校合 鈴木行一



